

16  
125  
96

萬葉集古義

十五  
中



萬葉集古義

十五中

東 京 圖 書 館			
一 三 五 冊	九 六 號	一 六 架	類 門



2091/24

萬葉集古義十五卷之中



過大島鳴門而經再宿之後

追作歌二首

土佐國 藤原雅澄撰



大島鳴門ハ本居氏云この鳴門今も有り大畑迫戸と云て周防の地と大島との間の迫門なり潮満する時ハ鳴響いと高くて舟人のおそるゝ處なりとそ



巨禮也己能名爾於布柰流門  
能宇頭之保爾多麻毛可流登  
布安麻乎等女杼毛

ウヅシホ 宇頭之保ハ本居氏云宇頭ハリづまさのりづと一なり  
高き意ときこゆ書記小雄畧天皇十五年詔聚秦民  
賜於秦酒公公仍領率百八十種勝奉獻庸調也  
ツクリミカドニカレ 積朝廷因賜姓曰禹豆麻佐一云禹豆母利麻佐皆盈積

之貞也とあり○多麻毛可流登布  
玉藻列と云なり○歌意ハ此の彼かねて聞及び鳴  
門小てやあるらむ誠名小負する如く世小恐く危  
ふき海門なる小その高きうづ潮小下立て玉藻列と  
いふなるハげふも危ふき海人少  
女の志己ご小そありけるとなり  
右一首田邊秋庭

秋庭ハ傳未  
詳ならず



柰美能宇倍爾。宇伎禰世之欲  
 比安杼毛倍香。許已呂我奈之  
 久伊米爾美要都流。

安杼毛倍香ハ何思ヘを歎ナリ。契沖のいざあへをか  
 ろし十四丁世五小安杼毛敞可何自久麻夜末乃云々こ  
 こハ妹の吾ことをなどおもへむ小のの意ナリ此下  
 十七小和伎毛故我伊可爾於毛倍可云々とあると意

ひとし歌意ハ家の妹の吾事をいこの小深く思ひお  
 こせむ小のあらむ浪上小浮宿せし夜の夢小危きな  
 もいとをずして入來て心  
 愛しく見えつるとなり

○右歌作者

を脱せり

熊毛浦船泊之夜作歌四首

熊毛ハ和名抄小周防國熊毛郡熊毛  
 久万介○船字古寫本小ハ船と作り



美夜故邊爾由可牟船毛我可  
 里許母能美太禮豆於毛布許  
 登都礙夜良牟。

可里許母能ハ亂の枕詞なり○許登都礙夜良牟礙字古寫  
 本小尋拾穗本ハ言告遣むあり○歌意ハ都方小行船  
 小碍と作り。ものがあれの。さらバ亂れ狂ひて  
 思ふ心を家妻小告遣べきととなり

右一首羽粟

羽粟ハ契沖羽粟翔小や畧きて氏のみをかけるの。又  
 ハ名の脱する歎と云り翔ハ續紀小寶字五年十一月  
 癸未授迎藤原清河使外從五位下高元度從五位上其  
 録事羽粟翔者留清河所而不歸寶龜六年八月庚寅授  
 遣唐録事正七位上羽粟翼外從五位下爲准判官七年  
 三月癸巳大外記外從五位下羽粟翼爲兼勅旨大丞八  
 月癸亥山背國乙訓郡人外從五位下羽粟翼賜姓臣天  
 應元年六月壬子遣從五位下勅旨大丞羽粟臣翼於難

百人一首一タ  
 話云初安倍  
 仲誓入唐の節  
 備人として  
 有りし羽粟  
 吉満といふ  
 のあり仲誓  
 從て唐小在る  
 間小唐女と娶  
 りて一子を生  
 り其名を翼と  
 いひし天平  
 五年廣成帰朝  
 の節仲誓小  
 とまをこひ一  
 子翼を伴ひて  
 日本に歸りぬ



此翼といふもの生質聰明よ  
て帰朝の後出  
家して、学業  
は長するより  
朝廷に開えけ  
れハ選俗せし  
めて正二位と  
授けられ、桓武  
帝の延暦十年  
まで存命せし  
と云とあり、此  
説不知可據、恐  
妄説

波令練朴消、延暦元年二月庚申、為丹波、介四年八月丙  
子、授從五位上、五年七月壬寅、正五位下、羽粟、臣翼為内  
藥、正兼侍醫、七年三月己巳、從五位上、羽粟、臣翼為左京  
亮、内藥、正侍醫如故、八年二月癸未、葉栗、臣翼為兼内蔵  
助、九年二月甲午、授正  
五位下、と見えしり

安可等伎能伊敞胡悲之伎爾。  
宇良未欲理可治乃於等須流。

波安麻乎等女可母。

宇良未、未、舊本末、ハ、浦廻なり、上、出、歌意ハ、曉の  
寢覺、いと、物心ぼそく、家戀しく、思える、小、浦、方  
より、漕、出、る、船、の、楫、音、の、聞、ゆる、ハ、海、人、少、女、小、て、や、あ  
る、ら、む、か、れ、を、き、け、ば、い、つ、ー、の、あ、の、如、く、船、漕、て、家、の  
方、小、ハ、歸、る、べ、き、と、思、え、れ、て、さ、て、も  
殊、更、小、家、戀、しく、思、え、る、よ、と、な、り

於伎敞欲理之保美知久良之。



可良能宇良爾。安佐里須流多。  
豆奈伎豆佐和伎奴。

可良能宇良ハ下丁小筑前國志麻郡之韓亭とある處

の浦なり長門赤間より今道一里むのりありといへ

り○歌意かくれ

さるすぢある

於吉敞欲里。布奈妣等能煩流。

與妣與勢豆。伊射都氣也良牟。  
多婢能也登里乎。

注小一云多妣能夜杼里乎伊射都氣夜良奈○歌意ハ

澳の方より船人の京の方小向いて漕上る楫音する

なりいざやかの船人を呼寄て旅宿の憂あぶら

平安あるけりさまを家妻小告て遣むとなり

佐婆海中。忽遭逆風漲浪漂。



流經宿而後幸得順風到著

豐前國下毛郡分間浦於是

追怛艱難悽惆作歌八首

佐婆ハ和名抄小周防國佐波郡馬波音佐波書紀仲哀天皇卷小參迎干周芳沙磨之浦○下毛ハ和名抄小豊前國上毛郡美加牟豆下毛郡兵部式小豊前國下毛驛馬など見ゆ○分間ハ今も下毛郡小ありて分間をマ、コ

もワマと

も云とそ

於保伎美能美許等可之故美

於保夫禰能由伎能麻爾末爾

夜杼里須流可母

歌意かくれ

るすぢあ



右一首雪宅麻呂

ミギノヒトウタハユキノヤカマ

雪宅麻呂ハ傳未詳ならず下小雪連宅麻呂とあり雪  
ハ壹岐氏なり懷風藻ヨ伊支連古麻呂ありて目錄ハ  
ハ雪連と記せり和名

抄小壹岐島伎由見ゆ

和伎毛故波伴也母許奴可登。  
麻都良牟乎於伎爾也須麻牟。

伊敝都可受之豆

ハヤモコヌカト 伴也母許奴可登ハ早くも歸り來よといふなり。  
ヌハ 奴ハ不の意ハあらず希望辭の禰子の活轉ウツロいふるあり。  
常ハ來禰子とのみ云を可カの言ハ連子く故小禰子をりつ  
て奴ヌと云るなり既レく委レ云り○伊敝都可受之豆  
ハ家附イハツカずしてあり

○歌意かくれなり

宇良未欲里許藝許之布禰乎。



風波夜美。於伎都美宇良爾夜。

杼里須流可毛。

未舊本末小誤まり。○於伎都美宇良ハ奥津御浦なり。  
奥ハ画などの底を奥といふ。同づく行つまりこる  
處といふ。御ハ例の美稱なり。さればこハ海中小も  
あらず。海底もあらず。海浦の入こみ行つまりこる  
處といふ。○歌意ハ泊の浦のあよりより。漕出来小  
船と。又風ハ疾くて浪興故小漕行事を得ずして。奥津

御浦小宿とする哉。いので早く行到りて。

家の方小漕歸らまほしく思ふをとなり。

和伎毛故我。伊可爾於毛倍可。

奴婆多末能。比登欲毛於知受。

伊米爾之美由流。

伊可爾於毛倍可ハ吾をいの小思へバのなり。○比登  
欲毛於知受十二。小我等心望使念新夜一夜不落夢



見此下三十一小於毛比都追奴禮婆可毛等奈奴婆多麻  
 能比等欲毛意知受伊米爾之見由流○伊米爾之美由  
 流米字拾穂本沫ハ夢小一所見なり爾之とつらね  
 するハそのさざのふ然る時おいふ辭なり四卷十三  
 小真野之浦乃與騰乃繼橋情由毛思哉妹之伊目爾之  
 所見又三十一吾念乎人爾令知哉玉匣開何氣都跡夢西  
 所見又三十一無間戀爾可有牟草枕客有公之夢爾之所  
 見又四十一網兒之山五百重隱有佐堤乃埼左手蠅師子  
 之夢二四所見又四十三空去月之光二直一目相三師  
 人之夢西所見七卷十八小自荒磯毛益而思哉玉之浦

離小島夢石見十一十九丁將念其人有哉鳥王之每夜  
 君之夢西所見十二十一丁小白細布之袖折反戀者香妹  
 之容儀乃夢二四三湯流又三十三水咫衝石心盡而念鴨  
 此間毛本名夢西所見これらハ夢爾之とつらねする  
 例どもなり此外云々爾之とつらねすること多し皆  
 同ド心をえなり○歌意ハ吾妹子のいの小吾を深く  
 思へを小の一夜も關ず毎夜毎夜の  
 夢小入來て見ゆるならむとなり

宇奈波良能於伎敵爾等母之。



伊射流火波安可之豆登母世。

夜麻登思麻見無。

安可之豆登母世ハ夜を明して燭せあり。灯せの意の  
ともおもへど。○夜麻登思麻ハ大和國なり。○歌意ハ  
海原の澳よ燭して漁する海人の漁火をバ夜を明し  
て絶ず燭せよさらばその火光ふよりて吾戀しく思  
ふ大和國を夜もすが  
ら見遣むそとなり

可母自毛能宇伎禰乎須禮婆。

美奈能和多可具呂伎可美爾。

都由曾於伎爾家類。

可母自毛能ハ枕詞なり。一卷小鴨自物水爾浮居而云  
云○美奈能和多ハ枕詞なり。○可具呂伎可美ハ上の  
可ハ添ふる辭ふて黒髪なり。五卷小美奈乃和多迦具  
漏伎可美爾七卷小弥那能綿香烏髮十三小膳腸香黒



髮丹十六小三名綿蚊黒爲髮尾など

あり○歌意かくれこるすぢな

比左可多能安麻豆流月波見  
都禮杼母安我母布伊毛爾安  
波奴許呂可毛

歌意かく  
れな

奴波多麻能欲和多流月者波  
夜毛伊豆奴香文宇奈波良能  
夜蘊之麻能宇倍由伊毛我安  
多里見牟旋頭歌也

波夜毛伊豆奴香文ハ鳴呼早くもあ出よのの意  
なり○伊毛我安多里見牟ハ妹の家のあるり見むと



なり○歌意かゝ  
れゝるすぢあゝ

至筑紫館遥望本郷悽愴作  
イタリツクシノタチニミサケモトツクニノカタラカナレミテヨメル

歌四首

之賀能安麻能一日毛於知受。  
也久之保能可良伎孤悲乎母。

安禮波須流香母。

之賀ハ、賀字をバ書これ。和名抄ハ筑前國糟屋郡志珂  
ごある是あり。既く三卷ハ委云り。志珂の島福岡の城  
より三里むあり北ハありて。民家多し昔ハ糟屋郡の  
内ありし。今ハ那珂郡ハ屬するよ。筑前名寄ハ  
へり○歌意本句ハ序ハて。さても辛く苦しき思をも。  
吾ハする事ハとあり。此ハ十一  
火氣焼立而焼塩乃辛戀毛吾爲鴨  
とある歌を聞小誦へる小似り



思シ可カ能ノ宇ウ良ラ爾ニ。伊イ射ザ里リ須ス流ル安ア。  
 麻マ伊イ敝ヘ妣ビ等ト能ノ麻マ知チ古コ布フ良ラ牟ム。  
 爾ニ安ア可カ思シ都ツ流ル宇ウ乎ヲ。

伊敝妣等と云るハ、海人の家人なり。○安可思都流宇乎ハ、夜を明して釣魚なり。○歌意ハ、契沖云、これらハ、勅を兼はりこる身なれば、事をなせるかぎりハ歸ることあさえず、あまハ身を心のまゝ、みせるを魚をつる

お心をいれて、おのが家なる妻ども、の待こふらむことをおもおもえぬよと、この身のうへよりよれたるなり、六帖ハ、あさら夜を妹ともねあむとりがこきあゆとるとると、岩の上ハ居て、第九ハ、浦島子とよれたる歌ハ、堅魚釣鯛釣矜七日まで家ハ  
 も来ずて、などさへよめり

可カ之シ布フ江エ爾ニ。多タ豆ヅ柰ナ吉キ和ワ多タ流ル。  
 之シ可カ能ノ宇ウ良ラ爾ニ。於オ积キ都ツ之シ良ラ柰ナ。



美多知之久良思毛

可之布江ハ未考ず糟屋郡香推ハ志珂の浦のむらひ  
小あれば彼入江を可之布江といへる小や志珂ハ今  
ハ那珂郡ニ屬されど元ハこれも糟屋郡の内なりと  
筑前名寄小いへり○多知之久良思毛ハ契冲立一來  
ら一もとも聞え立重ら一もとも聞ゆと云り立重  
毛ハ歎息辭なり注小一云美知之伎奴良思とありこ  
れも滿一來ぬら一とも滿重ぬら一とも聞ゆ  
○歌意かくれこるすぢなし見るやうなり

伊麻欲里波安伎豆伎奴良之  
安思比奇能夜麻末都可氣爾  
日具良之奈伎奴

歌意かく  
れあ

七夕仰觀天漢各陳所思作



歌三首

安伎波疑爾爾保敝流和我母。  
奴禮奴等母伎美我美布禰能。  
都奈之等理豆婆。

爾保敝流和我母ハ染有吾裳なり草木花まゝ黄土な  
ど小觸て衣小色の移り染るを爾保布と云り八卷三

四 小草枕客行人毛行觸者爾保比奴倍久毛開流芽子  
香聞十卷三十五小事更爾衣者不摺佳人部為咲野之芽  
子爾丹穗日而將居十六八小墨江之遠里小野之真榛  
持丹穗之為衣丹一卷廿七小岸之埴布爾仁寶播散麻  
思乎六卷十五小住吉能岸乃黄土粉二寶比天由香名  
など猶多一〇歌意ハ織女の心小ありてよめるみて  
彦星君をトすぢ小留めまほしく思ふ小つきて其御  
舟の綱を取て引留めてあらばとひ芽子ハ染へる  
吾裳ハよゝや沾て色の傷をる  
ともそれをべいとをどごなり



右一首大使

大使ハ阿倍朝臣繼麻呂なり。續紀云。天平七年四月戊申。正六位上阿倍朝臣繼麻呂授從五位下。八年二月戊寅。為遣新羅大使。四月丙寅拜朝。九年

正月辛丑泊津嶋卒と見ゆ上小委一引り

等之爾安里豆。比等欲伊母爾  
安布。比故保思母。和禮爾麻佐

里豆於毛布良米也母。

歌意ハ一年ふ一度逢彦星也。我旅ふありて。妹を戀ふ思ふ心の切なるふも。まさらどとなり。○此歌六帖小ハ尾句を思ふらむやハと改めり。又拾遺集小思ふらむやそとして。人麿の歌とせるハ。かゝるらいつ

由布豆久欲。可氣多知與里安



比。安麻能我波許具布奈妣等  
乎見流我等母之佐。

歌意ハ吾旅ホありて家妻戀しく思ふ折しも夕月の影ホ立寄合て天河渡る人を見るの羨しさいをむ方あしとなり上ホ彦星も我ホ勝りて思ふらめやもと云るホて其意をさとするべし。畧解ホ夕月の影ハいつホ渡る星の影ハ年ホ一夜なればめづらきと云なりと云るハいみじきいぶことなり

海邊望月作歌九首

安伎可是波比爾家爾布伎奴  
和伎毛故波伊都登加和禮乎  
伊波比麻都良牟。

比爾家爾ハ日ホ來經ホなり日ホ日ホといをむの如し。○伊都登加ハ登加ハ顛倒ホなれるホて何時歟と



なりし小や○歌意ハ秋風の日毎小寒く吹時小至り  
ぬればいつの歸り來むいつの歸り來むと吾妹子ハ  
齋清イヒキヨメて神祇小祈願つ。

吾を待て在らむとなり

ツカヒノカコノオトムスエ

### 大使之第二男

大使之第二男ハ遣新羅大使阿倍朝臣繼麻呂の二郎  
なり續紀小寶字元年八月庚辰正六位上阿倍朝臣繼  
人授從五位下と見

ゆもいハ此人の

可牟佐夫流安良都能左伎爾。

與須流奈美麻柰久也伊毛爾。

故非和多里柰牟。

可牟佐夫流ハこの荒津ハ往昔よりの船津にて神々

しくものふりこれハ云なるべし○安良都ハ三代實

録十六小筑前國那珂郡荒津と見ゆ是なり畧解小和

前國宗像郡小荒大荒郷有是十二四丁小白名抄小筑妙乃袖之



別乎難見爲而荒津之濱屋取爲鴨草枕羈行君乎荒津  
左右送來飽不足社又マテオクリキスドスキタラズコツ四十荒津海吾幣奉將齋早還座  
面變不爲などある皆同ド○歌意ハ本句ハ序小て間  
も時もなく家よ何る妹を戀しく思ひて月日を經度  
なむの

となり

右一首土師稻足

稻足シギノヒトウタハニシノイナタリ  
稻字古寫本よ  
稻楯と作るハ誤  
のハ傳未詳ならず

可是能牟多與世久流柰美爾。

伊射里須流安麻乎等女良我。

毛能須素奴禮奴。

注小一云安麻乃乎等賣我毛能須蘓  
奴禮濃○歌意かくれこるすぢな一

安麻能波良布里佐氣見禮婆。



欲ヨソフケニケル曾布氣爾家流ヨシエヤシ與之惠也之。  
比ヒトリヌル等里奴流欲波安氣婆安氣  
奴等母。ヌトモ

歌意かく

れな

右一首旋頭歌也

和ワ多タ都ツ美ミ能ノ於オ伎キ都ツ柰ナ波ハ能ノ里リ。  
久ク流ル等ト伎キ登ト伊イ毛モ我ガ麻マ都ツ良ラ牟ム。  
月ツキ者ハ倍ヘ爾ニ都ツ追ハ。

於伎都柰波能里ハ、奥津繩苔オキツナハノリなり、繩苔ハ品物解小云、  
繩苔ハ、縁寄マて採トものある故メ、來ると云むメ、  
るなり○歌意第一二句ハ序小て、月ハ經行つ、此、  
頃ハこの歸り來る時をとて、妹の待らむとなり



之シ可能カ宇ウ良ラ爾ニ伊イ射ザ里リ須ス流ル安ア  
麻マ安ア氣ケ久ク禮レ婆バ宇ウ良ラ未ミ許コ具グ良ラ  
之シ可カ治ヂ能ノ於オ等ト伎キ許コ由ユ

安氣久禮婆ハ夜の明來者なり○未舊本

未小誤れり○歌意かくれざるすぢなり

伊イ母モ乎ヲ於オ毛モ比ヒ伊イ能ノ彌子良ラ延エ奴ヌ

爾ニ安ア可カ等ト吉キ能ノ安ア左サ宜ギ理リ其ゴ問モ

理リ可カ里リ我ガ彌子曾ソ柰ナ久ク

伊能彌良延奴爾イノ子ラエヌニ彌彌舊本禮舊本小誤拾穂本ハ宿イの寐子られぬ小な

り○歌意ハ家小ある妹を戀しく思ひて夜もいねられぬ小曉イに至ればいよく物

思ハしく馬の音を鳴とあり

由ユ布フ佐サ禮レ婆バ安ア伎キ可カ是ゼ左サ牟ム思シ



和伎母故我等伎安良比其吕  
母由伎豆波也伎牟。

安伎可是類聚抄小多秋風と作り○等伎安良比其吕  
母其吕母類聚抄ハ七卷三十小椽解濯衣之恠殊欲服  
此暮可聞○歌意ハ夕小なれば秋風寒し家妻の吾小  
著せむ料小解洗ひて縫する衣を早く歸り行て著む  
とな

和我多妣波比左思久安良思  
許能安我家流伊毛我許吕母  
能阿可都久見禮婆。

安良思ハ有らくなり○許能安我家流ハ此吾著有  
り熱田宮縁起宮酢媛歌小和何祁流意須比乃宇閑爾  
○伊毛我許吕母類聚抄ハ妹我衣と作り○歌意ハ  
此吾著する妹の形見の衣の垢つき褻するを見れば



今ハ早吾旅行の月日の程久しく成來ぬらりとあり。  
世卷一丁小多妣等弊等麻多妣爾奈理奴以弊乃母加  
积世之己呂母爾  
阿加都积爾迦理

到筑前國志麻郡之韓亭船

泊經三日於時夜月之光皎

皎流照奄對此華旅情悽噎

各陳心緒聊以裁歌六首

韓亭ハ和名抄よ筑前國志摩郡韓良下小可良等麻里  
と見ゆ亭ハ道路所舎とありとまりなり和名抄よ釋  
名云亭人所亭集也和名阿波良一云阿波良也○此華  
華字類聚抄小ハ花と作り拾  
穂本小ハ美景二字と作りハ物華と云る小同トカ  
らむ下丁廿六ふ於是

瞻望物華とあり

於保伎美能等保能美可度登



於<sup>オ</sup>毛<sup>モ</sup>敝<sup>ヘ</sup>禮<sup>レ</sup>杼<sup>ド</sup>氣<sup>ケ</sup>奈<sup>ナ</sup>我<sup>ガ</sup>久<sup>ク</sup>之<sup>シ</sup>安<sup>ア</sup>禮<sup>レ</sup>  
婆<sup>バ</sup>古<sup>コ</sup>非<sup>ヒ</sup>爾<sup>ニ</sup>家<sup>ケ</sup>流<sup>ル</sup>可<sup>カ</sup>母<sup>モ</sup>。

等保能美可度<sup>トホノミカド</sup>ハ筑紫<sup>トホノミカド</sup>ハ太宰府<sup>トホノミカド</sup>ある故<sup>トホノミカド</sup>遠朝廷<sup>トホノミカド</sup>と云り。  
三卷<sup>三</sup>卷<sup>四</sup>小<sup>オホ</sup>大王<sup>キミノトホ</sup>之<sup>ノ</sup>遠<sup>トホ</sup>乃<sup>ノ</sup>朝廷<sup>ミカド</sup>跡<sup>アト</sup>蟻<sup>アリ</sup>通<sup>トホ</sup>島<sup>シマ</sup>門<sup>カド</sup>乎<sup>ヤ</sup>見<sup>ミ</sup>者<sup>バ</sup>神<sup>カミ</sup>代<sup>ヨ</sup>  
之所<sup>シ</sup>念<sup>オモ</sup>とある處<sup>トホ</sup>具<sup>ツ</sup>云<sup>ク</sup>り。契<sup>チ</sup>冲<sup>ウ</sup>乃<sup>ノ</sup>遠<sup>トホ</sup>の朝廷<sup>ミカド</sup>ハ遠<sup>トホ</sup>き  
歌<sup>ウタ</sup>意<sup>イ</sup>ハ遠<sup>トホ</sup>朝廷<sup>ミカド</sup>なれば皇都<sup>ミヤコ</sup>小<sup>オホ</sup>亞<sup>ア</sup>てをさくおとる事  
あくこのもき物<sup>モノ</sup>小<sup>オホ</sup>思<sup>オモ</sup>へれども妻<sup>メ</sup>小<sup>オホ</sup>別<sup>ワ</sup>れ來<sup>キ</sup>て月<sup>ツキ</sup>日<sup>ヒ</sup>  
久<sup>キウ</sup>くなりぬれば堪<sup>カン</sup>がとくて一<sup>ヒト</sup>すぢ小<sup>オホ</sup>家<sup>カ</sup>路<sup>チ</sup>戀<sup>コイ</sup>く

思ひつる

哉となり

右一首大使

多<sup>タ</sup>妣<sup>ビ</sup>爾<sup>ニ</sup>安<sup>ア</sup>禮<sup>レ</sup>杼<sup>ド</sup>欲<sup>ヨ</sup>流<sup>ル</sup>波<sup>ハ</sup>火<sup>ヒ</sup>等<sup>ト</sup>毛<sup>モ</sup>  
之<sup>シ</sup>乎<sup>ヤ</sup>流<sup>ル</sup>和<sup>ワ</sup>禮<sup>レ</sup>乎<sup>ヤ</sup>也<sup>モ</sup>未<sup>ミ</sup>爾<sup>ニ</sup>也<sup>モ</sup>伊<sup>イ</sup>母<sup>モ</sup>  
我<sup>ガ</sup>古<sup>コ</sup>非<sup>ヒ</sup>都<sup>ツ</sup>追<sup>ツ</sup>安<sup>ア</sup>流<sup>ル</sup>良<sup>ラ</sup>牟<sup>ム</sup>。



多妣類聚抄よハ旅と作り○也未類聚抄よ山と作る  
 ハ誤なり○歌意ハ我ハ旅なれど夜ハ火ともしてを  
 るを家妹ハ心の闇ヤミふくれまどいて吾を戀しく思ひ  
 つゝやあるらむとなり女の心一ツあるを想ひやりて  
 云るなり十二四十よ久將在君  
オモフニヒサカタノキヨキツヨモヤミノミミツ  
 念爾久堅乃清月夜毛闇夜耳見  
ミギノヒトウタハオホキマツリゴトヒト

右一首大判官

可良等麻里能許乃宇良奈美

多々奴日波安禮杼母伊敞爾

古非奴日者柰之

可良等麻里ハ右カ云るカ韓亭カラトマリなり契冲云源氏物語玉  
 もカからとまりよりかたどりかすほどカ例の舟子と  
 なさけあきもあえれよきこゆカ閑云備前國なり川  
 尻まで三日ほどあり弄花良惟の意見カ載るご  
 とくあらば唐泊より川尻ハ三日行道なり此故よ  
 川尻といふ所ちのづきてふなこハからとまりより  
 おすはといふとるかひこるなり唐泊ハ備前國より狭  
 衣歌かへり來しかひこそ無れ唐泊ハ筑前と備前と  
 の行へハこれなればからとまりハ筑前と備前と  
 小同名○能許乃宇良ハ浦と類聚抄よ能許ハ兵部省式  
 あるの



小筑前、國能巨島牛牧朝野群載廿卷寛仁三年太宰府  
 解小筑前國那珂郡能古嶋重録在狀小右記小筑前國  
 乃古島などある其處なり夫木集小中務塩風ハ荒く  
 もそなる唐泊のこのりら船こぎいづあゆめ但し韓  
 亭ハ志摩郡小て能許トハ郡とのへれど能許の浦ハ  
 韓亭の地小も互れるのあは國人小尋ぬべし狹衣ハ  
カラトマリこのみくづと流れしを瀬々の岩浪尋ねてしあふと  
 あるハもしハこの能古をそこと誦誤りてさてよめ  
 和名抄小みゆれバ能許ハ能解の誤ならむのとある  
 へど朝野群載中右記等ハ能古島とあれバさてある  
 べしといへり但し貝原氏筑前名寄小ハ能解能古同  
 知小て早良郡小何今の殘島なり朝野群載小那珂  
 郡と一藻塩草小志摩郡とせるハ共小ちのへりとい

へり、も一能解能許同地あらむまハ。○伊敞類聚抄小  
 能解ハ後小誤れる小もあらむ。ハ家と作り○歌意ハ韓亭の能巨の浦浪ハ常小荒く  
 起てさこのへき小その浪さへさまくハ穩小和ナギ  
 る日も何るものを吾家を戀しく思ふ心の和る日ハ  
 一日もさら小なしとなり古今集小駿河なる田子の  
 浦浪立ぬ日ハ有ども君を戀ぬ日ハなし今とおほの  
 と似ある

又  
 歌なり  
 ハタマノヨワタルツキニア  
 奴波多麻乃欲和多流月爾安



良<sup>ラ</sup>麻<sup>マ</sup>世<sup>セ</sup>婆<sup>バ</sup>伊<sup>イ</sup>敞<sup>ヘ</sup>柰<sup>ナ</sup>流<sup>ル</sup>伊<sup>イ</sup>毛<sup>モ</sup>爾<sup>ニ</sup>安<sup>ア</sup>  
比<sup>ヒ</sup>豆<sup>テ</sup>許<sup>コ</sup>麻<sup>マ</sup>之<sup>シ</sup>乎<sup>ヲ</sup>

歌意ハ空往月小吾身のあるならバ戀しく思ふ家妻  
お相見てやめて歸り來まゝ物を月をらぬ吾身おれ  
バいのお思ひてもせむ方なしとなり十一  
ふ久堅之天飛雲爾在而然君相見落日莫死

比<sup>ヒ</sup>左<sup>サ</sup>可<sup>カ</sup>多<sup>タ</sup>能<sup>ノ</sup>月<sup>ツ</sup>者<sup>キ</sup>豆<sup>ハ</sup>利<sup>テ</sup>多<sup>リ</sup>里<sup>タ</sup>伊<sup>リ</sup>

刀<sup>ト</sup>麻<sup>マ</sup>奈<sup>ナ</sup>久<sup>ク</sup>安<sup>ア</sup>麻<sup>マ</sup>能<sup>ノ</sup>伊<sup>イ</sup>射<sup>ガ</sup>里<sup>リ</sup>波<sup>ハ</sup>等<sup>ト</sup>  
毛<sup>モ</sup>之<sup>シ</sup>安<sup>ア</sup>敞<sup>ヘ</sup>里<sup>リ</sup>見<sup>コ</sup>由<sup>ユ</sup>

歌意ハ月光の清きのうへお彼方小も此方小も隙な  
く海人の漁火を燭し合せていよく海面の明のよ  
見やらると

なるべし

可<sup>カ</sup>是<sup>ゼ</sup>布<sup>フ</sup>氣<sup>ケ</sup>婆<sup>バ</sup>於<sup>オ</sup>吉<sup>キ</sup>都<sup>ツ</sup>思<sup>シ</sup>良<sup>ラ</sup>奈<sup>ナ</sup>美<sup>ミ</sup>



可<sup>カ</sup>之<sup>シ</sup>故<sup>コ</sup>美<sup>ミ</sup>等<sup>ト</sup>能<sup>ノ</sup>許<sup>コ</sup>能<sup>ノ</sup>等<sup>ト</sup>麻<sup>マ</sup>里<sup>リ</sup>爾<sup>ニ</sup>。

安<sup>ア</sup>麻<sup>マ</sup>多<sup>タ</sup>欲<sup>ヨ</sup>曾<sup>ソ</sup>奴<sup>ヌ</sup>流<sup>ル</sup>。

歌意ハ風ノ荒ク吹バ澳ツ白浪ノ高ク興故小恐一々  
危ふ一として發船を得せずして能巨の泊小數多夜夜  
をかさねて旅宿をそするとなりい  
そぐ心のやるかくなきを云るなり

引津亭船泊之時作歌七首

引津ハ是も志麻郡なり引津ハ岐志といふ地の北小  
ありて昔ハ舟入る所あり一の今ハ田とわかれよ  
筑前名寄小いへり七卷廿七丁小梓弓引津邊在莫謂  
花云々又十卷十七丁小本句同  
歌あり濱成式小當麻大夫陪駕伊勢思郷歌○時字舊  
云とてかの歌を何げこれハ異所なるべし  
本脱より

今補つ

久<sup>ク</sup>左<sup>サ</sup>麻<sup>マ</sup>久<sup>ク</sup>良<sup>ラ</sup>多<sup>タ</sup>婢<sup>ビ</sup>乎<sup>ヲ</sup>久<sup>ク</sup>流<sup>ル</sup>之<sup>シ</sup>美<sup>ミ</sup>。

故<sup>コ</sup>非<sup>ヒ</sup>乎<sup>ヲ</sup>禮<sup>レ</sup>婆<sup>バ</sup>可<sup>カ</sup>也<sup>ヤ</sup>能<sup>ノ</sup>山<sup>ヤマ</sup>邊<sup>ヘ</sup>爾<sup>ニ</sup>草<sup>サ</sup>。



乎思香柰久毛。

可也カヤノ能山ノハ筑前國志麻郡ノありて今親山オヤといふよ  
貝原氏云り幽齋道之記ふ天正十五年五月廿六日  
可也カヤ山ノ小ノて去キげりゆくノやの山邊ノ小ノ入鹿ノの秋ノより  
露ノ小ノぬれてふすらむとあり○歌意ハタビ羈旅ノの憂ワ苦ビ一  
さ小家妻を戀コしく思シいつゝをればあノの可也カヤの山邊  
小も牡鹿の鳴アハレふ鳴呼アハレさても吾のみ小あらず彼も妻  
を戀コしく思シいて鳴ナな  
らむといふなるべし

於吉都奈美多可久多都日爾。  
安ア敝ヘ利リ伎キ等ト。美ミ夜ヤ古コ能ノ比ヒ等ト波ハ。  
伎キ吉キ豆テ家ケ牟ム可カ母モ。

於吉の下都字拾穂本小を津と作り○歌意かくれこ  
るすぢあし實小も家人の事を主とせれど大のこ小  
都の人とハ云  
るなるべし



ミギノフタウタハオホキマツリゴトヒト

# 右二首大判官

安麻等夫也。可里乎都可比爾。

衣豆之可母。奈良能彌夜古爾。

許登都礙夜良武。

安麻等夫也。天飛哉。小て也。高知也。天知也。などいふ也。小同。く。助辭なり。○可里乎都可比と云る。ハ。凡

て鳥ハ。遠き處を往來する物なれば。使と云ること古

多し。十一。十二。小妹戀不寐。朝明男爲鳥。從是飛度。妹使

古事記輕。太子御歌。小阿麻登夫。登理母都加比。曾多豆

賀泥能岐。許延牟登岐。波和賀那斗波。佐泥既。く高皇產

靈尊より葦原中國へ。雉を御使小遣されし事。神代小

見え。磐余彦尊の兄。猶のものとへ。八咫鳥を遣されし事

など思ひ合する。小實小鳥を使せしこと。上代より

の事。小そ有けむ。○礙字。古寫本。小ハ。号と作り。○歌意

ハ。いので。天飛。鳥を使。小得て。一が。あ。さら。バ。寧樂。都の

妻の許。小思。ふ。事を言告遣。べき。小こ。なり。拾遺集別部



ふて、柿本、人丸、天飛や、爲の  
使ふ、い、つ、の、も、奈良の都  
ふ、こ、と、つ、て、や、ら、む、と、て、載  
さ、る、も、か、さ、を、ら、い、さ、い

秋野乎。爾保波須波疑波佐家  
禮杼母。見流之留思奈之多婢  
爾師安禮婆。

見流之留志奈之ハ。見る益なり。ふて見る代無といえ  
むの如し。○歌意ハ。秋野をちりなべて。色小染をす芽

子の咲されば。其を見て心をあぐさむ。べき小妻小別  
れ來ぬる旅よてあれば。一すぢ小家戀りく思えれて。  
見る代もさら  
小をーとなり

伊毛乎於毛比。伊能禰良延奴  
爾安伎乃野爾。草乎思香柰伎  
都追麻於毛比。可禰豆。



追麻於毛比可禰豆ハ妻を思ふ小堪のねての意なり  
○歌意ハ家なる妹を戀しく思ひて夜も寝られぬ小  
吾と同日如く妻を戀しく思ふ小堪の

ねて秋野小牡鹿の鳴つるよとなり

於保夫禰爾真可治之自奴伎

等吉麻都等和禮波於毛倍杼

月曾倍爾家流

本一二句ハ三卷三十一小大船二真梶オホフネニマサキ繁シガラ貫スキ大王オホキミ之御命ノミコト  
恐磯廻為鴨とあるをえじめて集中小往々あり○等  
吉麻都等ハゴト志シホトキば潮時を待となり○歌意かく  
れこるすぢなすゝ志シホトキを潮時を待と思ふ間小月  
を經こる

よなり

欲乎柰我美伊能年良延奴爾

安之比奇能山妣故等余米佐



乎思賀柰久母。

欲乎柰我美ハ夜の長き故ふといふの如く○山妣  
故等余米ハ山彦令魯なり聲の木靈ふいづき答ふる  
をいふ○歌意

かくれなり

肥前國松浦郡狛島亭船泊  
之夜遙望海浪各慟旅心作

歌七首

狛島亭ハ未考へず○心

字拾穂本ふも懐と作り

可敝里伎豆見牟等於毛比之  
和我夜等能安伎波疑須須伎  
知里爾家武可聞。



歌意ハ旅發一時秋アキ子コならバ早く歸り來て見むと思  
ひ一ふこのひて歸る事を得ざれば此項ハ吾庭の茅  
子ギスキ込ハ散失つらむのさても早

く歸らまほしき事やとなり

ミギノヒトウタハハダノタマロ

## 右一首秦田滿

秦田滿ハ上ハシ秦間滿シマロと

ありいづれ是からむ

安米都知能可未乎許比都都。

安禮麻多武波夜伎萬世伎美。  
麻多婆久流思母。

許比都々ハ乞祈乍コヒツコヒノミツといふなり十三十八ナナハチハ天地之神  
乎曾吾乞痛毛須部奈見字鏡フツアガコライタモスミナミふ禍禱百靈也己不コフとあ  
り○歌意ハ君の平安サキ座イまさむ事と天神地祇ツ祈  
願つゝ吾待て居むを新羅シラ小行至りて早く此處ココ小歸  
り來賜へ月日程久しく待ハ苦  
くさ小堪がこのらむそとなり



右一首娘子

娘子ハ本居氏云舟泊する所の娘子なるべし。  
下ふも對馬娘子名玉槻とて歌有其類なり

伎美乎於毛比。安我古非萬久  
波安良多麻乃。多都追奇其等  
爾與久流日毛安良自。

與久流日毛安良自ハ與久流トハ戀々思ふ心の避  
離る意よて落る處ハ戀々思ふ心ハ月ごとよ一日  
も漏る日ハ有じとなり○歌意ハ君を吾戀々思ふ  
心ハ立更る月ごととの久々き間小一日も漏る日とい  
ふハさらぬあ

らどとなり

秋夜乎。柰我美爾可安良武柰  
曾許已波伊能禰良要奴毛比。



等里奴禮婆可。

奈曾許已波ナソコハバ已ハ字ハ古寫本ハ何幾許ナソコハバふて何とてそこ  
むくといふの如く○歌意ハおふとてかくむのりそ  
こむく宿イの寐られぬことそや此ハ思ふ小秋の夜の  
長き故小のあらむ又ハ獨宿る故小のあらむいこのさ  
まふも獨宿るゆゑおこそかく寐られざりけ  
めとなり三四一二五と句を次第ツイデて意得べし

多良思比賣御船波豆家牟松

浦乃宇美伊母我麻都敝伎月者倍爾都都。

多良思比賣タラシヒメハ息長足姫尊イセノミコふて此尊の御船泊まし  
ことハ五卷小云ミころの如くさて今新羅へゆく勅使ミカドツカ  
なればそののみを思ひ出イさるなりと契沖云り○船  
宇類聚抄小ハ船と作り○松浦乃宇美マツラノウタミハ妹の可待を  
いとむ序シタなり○歌意ハ家妻イセノメの今ハ歸り來む時至れ  
りとして吾を待べき月ハ經來りつゝ猶歸る事を得ず



して戀しくのみ思いつゝあるものこ

びしとなり結句小意を含み餘せり

多婢奈禮婆於毛比多要互毛

安里都禮杼伊敞爾安流伊毛

之於母比我奈思母

歌意ハ勅命を恐みてたるオホミコト 韓國よこころる旅おれカラクニ  
バいの小思ふとも爲む方ハあらざるよしやと思ひ切キリ

てハありつれど猶家よある妹と一すぢ小戀

し思ふ心小堪られずさても悲しやとなり

安思必寄能山等妣古由留可

里我彌婆美也故爾由加波伊

毛爾安比互許彌

歌意ハ山飛越て遙々行鷹の京都小行ならバ汝ご小  
吾家妻小あひて平安からむ容貌を見て歸り來て吾



小告てよの

しとなり

到壹岐島雪連宅満忽遇鬼

イタリテユ キノ シマニ ユキノ ムラジ ヤカ マロガ タチマチ エ

病死去之時作歌一首并短

歌

壹岐島ハ和名抄小壹岐島由伎と見えり本居氏此集よも由吉と見え和名抄よも由伎とあるふよりて

由伎といふを古と思ふ人あれど書紀繼體天皇卷の歌小以祇とよみ古事記小伊岐と見え又壹字も由の假字ならねばもとハ伊伎なること明けりさて名の義ハ此島小神祭坐とて齋忌の事ありより負せしる稱の又ハ韓國一渡る小先此小船とめて息む故小息の島の意ならむかと云りかれば壹岐とあるを由伎と訓むはいのなれど下の歌詞小由吉とよみ又懐風藻小伊伎連といふ人を目錄小雪連とよけるなどふよりて姑由伎と訓つ由伎とも伊伎とも古より通へりいへる稱とおほえさればなり○遇字



類聚抄小无キハこる。○鬼病ハエヤ衣夜美ミなり。和名抄云、拾穂本小ハ遭ト作り。瘡鬼ハ和名エヤ衣也ミ美乃カ加美ミ又云エヤ疫夜夜美ミ又云瘡病俗云衣夜美ハ俗トと云る。○一首并短歌の五字除べし其由ハこの題詞ハ左歌長短九首小肩カれる事小て左の作者一人小限りスるこ  
とならねばなり

須賣ス呂メ伎能ロ等キ保能ノ朝ト廷ホ等ノ可ミカ  
良國ラ爾ク和ニ多ニ流ワ和タ我ル世ワ波カ伊セ敝ハイハ

妣ビ等ト能ノ伊波イ比ハ麻ヒ多マ禰ダ可子多カ太タ  
未ミ可カ母モ安夜ア麻ヤ知マ之チ家シ牟ケ安ム吉アキ  
佐良サ婆ラ可バ敝カ里ヘ麻リ左マ牟サ等ム多ト良タラ  
知チ禰子能ノ波ハ波ト爾ニ麻マ乎ラ之シ豆テ等ト伎キ  
毛モ須ス疑ギ都ツ奇キ母モ倍ヘ奴ヌ禮レ婆バ今ケ日フ







人マシ禍ワザあるなりと云る如し。契沖チキチウの書紀シキに於オ是コノ天皇テウ命ミコトノ神カミ祇ヒメ伯ウヂ敬ウヤマシ受ウケ策サツ於オ神カミ祇ヒメとあるを引ヒキて宅満タクマンのなすことコトのこコとトこコりリ古事記コトワザ下シタよヨやヤそソむムきキけケむムの心ココロなりと云るハ非ヒトト古事記コトワザ下シタ卷マキ小コ輕ケイ太子者タヂノミコトノミヤコ流ナリ於オ伊余湯イヨトウ也ナリ亦モトモト將マカ流ナリ之時トキ歌ウタ曰イハレ意イ富フ岐キ美ミ衣イ斯シ麻マ爾ニ波ハ夫フ良ラ婆バ布フ那ナ阿ア麻マ理リ伊イ賀ガ幣ヘ理リ許コ牟ム叙シ和ワ賀ガ多タ彌ミ由ユ米メとあるを思オモ合ヘべトして可カ母モの辭コトバハ次ツギ句クの下シタよヨめメぐグらラして意イ得トクべトし家人イケノヒトの齋イハヒ清スガめメつツむムべきシ疊タガヒを疎オロソ忽ソカ小コして過アヤマ失チけケむム故ユヅリおオのノかカくク旅ツリ人ヒト小コ凶キヨウ事コトあるならむシさサても悔クハシき事コトといふ意イありアリ○可カ敞チウ里リ麻マ左サ牟ム等トハ歸カヘり來キ座マカむムといふありアリこコハ宅満タクマンの自ミヅカ言コトバし詞コトバなら他人タノヒトよりいイへヘばバかカく敬ウヤマシひヒて

云イハるルなり○麻マ乎ハ之シテ豆マシハ申マシ而シテなり上ウヘなる人ヒトよ向ムカひヒて云イハをヲ麻マ乎ハ須スと云りイハ乎ハ舊キウ本ホン子シと作サシりテそれノもモさサるルことコト由ユ申マシハ古コハ麻マ乎ハ須スとのみミ云イハれレババ古コ事コト記キ仁ニ德トク天テン皇クワン雄ユウ畧リョク天テン皇クワン等ト條ジョウ歌カ小コ麻マ表ヒヤウ須ス字ジ鏡キョウ小コ註チュウ注シユ万マン乎ハ須ス貞テイ觀カン儀ギ式シキ小コ朝チウ堂ドウ儀ギ云イハ々々辨ベン命メイ云イハ任ニ申マシ詞ジ云イハ万マン乎ハ須スとありアリ集シユ中チュウ小コもモ大ダイのノ然ゼンありアリ麻マ乎ハ須スといふイハハ音オン便ベン但タしシ十ジュウ八ハチ十ジュウ二ニ小コ加カ波ハ能ネ瀬セ麻マ乎ハ須ス勢セイ又マタ丁テイ麻マ乎ハ須ス之シテ多タ麻マ敞チウ禮レイ廿ニ卷マキ三サン丁テイ小コ伊イ能ネ里リ麻マ乎ハ須ス之シテ又マタ於オ夜ヤ爾ニ麻マ乎ハ須ス佐サ禰ニ式シキ部ブ式シキ小コ留リウ麻マ乎ハ須スなどナドもモあアれレババやヤくクごゴりリてテハハさサもモ云イハけケむムなるルべトし○妣ヒ等ト波ハのノ妣ヒ字ジ舊キウ本ホンよヨ比ヒと作サシりテ類ルイ聚キョウ抄シウよヨ從ス



○等保能久爾ハ遠之國トホノクニふて新羅を指て云○伊麻太イマダ毛都モツカ可受カズハ未至ミキり著ツクシもせずといふなり。四卷丁廿五五。筑紫ツクシ船フネ未毛イマモ不來コキ者バ豫荒エカシ振アラ公キミ乎見ミ之カ悲カシ左サとあるも。未イマモ來キもせぬふといふなり。未毛イマモとつらぬいふこと。古人の詞つのいなり。後世ノも聞つのぬことなり。○左可里サカの可カ字ジ類聚抄ノよも加カと作り。○夜杼里ヤドリスル須流君スルキミハ墓作りて葬れるをカク現在ノの人の如く云ナなるコトなり。

## 反歌二首

伊波多野爾イハタヌニ夜杼里ヤドリスル須流スル伎美キミ。  
 伊イ敞ハ妣ビ等ト乃ノ伊豆良等イヅラト和禮乎ワレヲ。  
 等波婆伊可爾伊波牟トハバズイカニイハム。

伊波多野イハタヌハ和名抄ニ壹岐島石田イツキノシマイシダ郡石田イシダノとあり。その野ノなり。伊イ之シ太タとあり。○伊敞イハ妣ビ等ト類聚抄ノよも家人ノと作り。○伊豆良等イヅラト和禮乎ワレヲハ何等イハやと吾ミふといふなり。伊豆良イヅラハ土左日記ニ小京コキョウへ歸カエるコト小女兒コメの無ナの



上左日記の文  
諸本同ト按ふ  
もとのみの下  
をの字あり  
の脱するもの  
なりむの

みそ哀戀云々有物と忘つ、猶七人を伊豆良と問そ  
悲しかりける。とあるふ同ト和禮乎ハ吾小と云むの  
如し吾爾といふべきを乎と云ること古例多し仁徳  
天皇紀歌小和例烏斗波輸讎古事記履中天皇大御歌  
小淤富佐迦邇阿布夜表登賣哀美知斗閉婆○波婆舊  
本顛倒小なれり今改つ○歌意ハ石田野墓造りて  
葬れる君なるを然とも知ずして家人の其君ハ  
何等やと吾小問バ其時いのゞ答へむとなり

與能奈可波都禰可久能未等。

和可禮奴流君爾也母登奈安  
我孤悲由加牟。

歌意ハ世間の常の理とてかく死別れぬる君なるふ  
得思ひ明らめずしてむさくしと戀しく思ひつ、韓  
國ののへ吾ハ行むのとなり。畧解ふ三句以下  
行むよくなりなりと云るハ甚しき誤なり。母登  
奈ハ俗言ふむさくしといをむむのごと。既云り

右三首姓名作挽歌



三首の下、舊本作者の姓名を脱し、こり、作者ハ遣新羅使の中、宅満と同行の人なり

天地等。登毛爾母我毛等。於毛  
比都都。安里家牟毛能乎。波之  
家也思。伊敞乎波奈禮豆。奈美  
能字倍由。奈豆佐比伎爾豆。安

良多麻能月日毛伎倍奴可里  
我彌母都藝豆伎奈氣婆多良  
知彌能波波母都末良母安佐  
都由爾毛能須蘓比都知由布  
疑里爾已呂毛豆奴禮豆左伎



久之毛安流良牟其登久伊低  
見都追麻都良牟母能乎世間  
能比登乃柰氣伎波安比於毛  
波奴君爾安禮也母安伎波疑  
能知良敞流野邊乃波都乎花

可里保爾布伎互久毛婆奈禮  
等保伎久爾敞能都由之毛能  
佐武伎山邊爾夜杼里世流良  
牟。

天地等云々四ハ天地と共に長く久くもがな平安  
くてあれのーと思ひつゝありけむ君なる物をと



ふなり此ハ家人のかく思ひてありーやりを推えの  
りて云る故小安里家牟といへるなり二卷廿九挽歌  
小天地與共將終登念乍奉仕之情違奴○伊敞乎波奈  
禮豆一卷廿九小柔備爾之家乎擇○柰豆佐比ハ上小  
も見ゆ浪漬傍なり○月日毛伎倍奴ハ月も日も來經  
ぬといふなり古事記景行天皇條歌小阿良多麻能登  
斯賀伎布禮婆阿良多麻能都紀波岐閑由久此集五卷  
小阿良多麻能吉倍由久等志乃○安佐都由爾云々四  
ハ家人の立待形容を思ひやりて云るなり二卷三十  
小且露爾玉藻者塗打夕霧爾衣者沾而云々とあり○

左伎久之毛云々四ハ死去ーことハあらで幸くてあ  
るらむ人のやり小家人の出見つゝ待らむものとの  
意かり之毛ハもと多ある物の中小その一すぢをと  
りて云助辭なり此ハ事物を執り念ふすぢの多  
ある中小一すぢ小想やりて幸くてあるらむと待さ  
まを云るなり○比登乃柰氣伎波といふ下小爲便も  
なく哀憐き物哉といふ詞を添て意得べー○安比於  
毛波奴云々二ハあのおあり待らむ家の母や妻とハ  
嗚呼相思をぬ君よ何れバよやの意なり也母ハ疑い  
て歎きこる辭なり○知良敞流ハ散有の伸りこるあ



り。良<sup>ナ</sup>淑<sup>ル</sup>の切<sup>キ</sup>禮<sup>レ</sup>知<sup>チ</sup>留<sup>ル</sup>を。知<sup>チ</sup>良<sup>ラ</sup>布<sup>フ</sup>知<sup>チ</sup>利<sup>リ</sup>を。知<sup>チ</sup>良<sup>ラ</sup>比<sup>ヒ</sup>といふと。  
 同<sup>レ</sup>語<sup>格</sup>なり。さてかくさまお伸<sup>ハ</sup>云<sup>ハ</sup>。その長<sup>ク</sup>けく緩<sup>カ</sup>を  
 るをいふことおて。知<sup>チ</sup>禮<sup>レ</sup>流<sup>ル</sup>ハ。その散<sup>テ</sup>であるを直<sup>シ</sup>おい  
 ひ。知<sup>チ</sup>良<sup>ラ</sup>淑<sup>ル</sup>流<sup>ル</sup>ハ。引<sup>ツ</sup>ゞきて。絶<sup>ズ</sup>長<sup>ク</sup>緩<sup>ク</sup>く散<sup>テ</sup>であるを  
 いふとの差<sup>ガ</sup>あり。知<sup>チ</sup>禮<sup>レ</sup>流<sup>ル</sup>ハ。俗<sup>小</sup>チツタ。知<sup>チ</sup>良<sup>ラ</sup>淑<sup>ル</sup>流<sup>ル</sup>ハ。チ  
 リヲルと云<sup>ハ</sup>の如<sup>ク</sup>。徒<sup>小</sup>お心<sup>マ</sup>まうせお。伸<sup>シ</sup>縮<sup>ス</sup>此<sup>レ</sup>事<sup>既</sup>く一  
 卷<sup>小</sup>委<sup>云</sup>り。○波<sup>ハ</sup>都<sup>ツ</sup>乎<sup>ハ</sup>花<sup>ハ</sup>。本<sup>居</sup>氏<sup>説</sup>お。秀<sup>尾</sup>花<sup>ナ</sup>初<sup>尾</sup>  
 花<sup>ナ</sup>なるべし。十<sup>卷</sup>五<sup>十</sup>丁<sup>小</sup>左<sup>小</sup>牡<sup>鹿</sup>之<sup>入</sup>野<sup>乃</sup>爲<sup>酢</sup>寸<sup>初</sup>  
 尾<sup>花</sup>云<sup>々</sup>。廿<sup>卷</sup>十<sup>三</sup>丁<sup>小</sup>波<sup>都</sup>乎<sup>婆</sup>奈<sup>波</sup>名<sup>爾</sup>見<sup>牟</sup>登<sup>之</sup>云  
 云。○可<sup>カ</sup>里<sup>ホ</sup>保<sup>ニ</sup>爾<sup>フ</sup>布<sup>キ</sup>伎<sup>テ</sup>豆<sup>ハ</sup>。喪<sup>モ</sup>の荒<sup>ア</sup>垣<sup>ガ</sup>を造<sup>ル</sup>ことなるを。

かく九<sup>テ</sup>存<sup>ヨ</sup>生<sup>ス</sup>時<sup>ノ</sup>の如<sup>ク</sup>。假<sup>カ</sup>廬<sup>ホ</sup>お造<sup>リ</sup>宿<sup>リ</sup>せると云<sup>ル</sup>  
 ぶ。あをれなり。○久<sup>ク</sup>毛<sup>モ</sup>婆<sup>バ</sup>奈<sup>レ</sup>禮<sup>ハ</sup>。雲<sup>ク</sup>居<sup>キ</sup>お遠<sup>ク</sup>放<sup>サ</sup>れさる  
 意<sup>アリ</sup>あり。古<sup>コ</sup>事<sup>ジ</sup>記<sup>キ</sup>仁<sup>ニ</sup>德<sup>トク</sup>天<sup>テン</sup>皇<sup>ス</sup>。條<sup>ジョウ</sup>歌<sup>カ</sup>。夜<sup>ヤ</sup>麻<sup>マ</sup>登<sup>ト</sup>幣<sup>ヘ</sup>彌<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>斯<sup>シ</sup>布<sup>フ</sup>伎<sup>キ</sup>  
 阿<sup>ア</sup>宜<sup>ゲ</sup>豆<sup>テ</sup>久<sup>ク</sup>毛<sup>モ</sup>婆<sup>バ</sup>那<sup>ナ</sup>禮<sup>レ</sup>曾<sup>ソ</sup>岐<sup>キ</sup>袁<sup>ヲ</sup>理<sup>リ</sup>登<sup>ト</sup>母<sup>モ</sup>和<sup>ワ</sup>禮<sup>レ</sup>和<sup>ワ</sup>須<sup>ス</sup>禮<sup>レ</sup>米<sup>メ</sup>夜<sup>ヤ</sup>○  
 都<sup>ツ</sup>由<sup>ユ</sup>之<sup>シ</sup>毛<sup>モ</sup>能<sup>ノ</sup>佐<sup>サ</sup>武<sup>ム</sup>伎<sup>キ</sup>ハ。十<sup>卷</sup>四<sup>十</sup>丁<sup>小</sup>露<sup>ツ</sup>霜<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>寒<sup>サ</sup>夕<sup>フ</sup>之<sup>ノ</sup>秋<sup>アキ</sup>風<sup>カゼ</sup>  
 爾<sup>ニ</sup>云<sup>ク</sup>々<sup>ト</sup>よめり。○良<sup>ラ</sup>牟<sup>ム</sup>と云<sup>テ</sup>。上<sup>ノ</sup>君<sup>キミ</sup>爾<sup>ニ</sup>安<sup>ア</sup>禮<sup>レ</sup>也<sup>ヤ</sup>母<sup>モ</sup>を  
 結<sup>ト</sup>め  
 二<sup>り</sup>

反歌二首

カヘシウタフタツ



波之家也思。都麻毛古杼毛母。

多可多加爾。麻都良牟伎美也。

之麻我久禮奴流。

多可多加加字類聚抄ハ遠く望み待意の詞なり。本  
氏云今俗言ハ可と作り。ハ遠く望み待意の詞なり。本  
ことの遅きを頸を長りて待と云。待既く具く云り。  
十三ニ丁小母父毛妻毛子等毛高々ニ來跡待異六人  
之悲沙○麻都良牟伎美也ハ君と作り。麻都良牟ハ

家人の心を此方より想ひやりて云るおて妻や子等の待居らむとの謂あり。伎美也ハその待るらむ君哉いのでと聞べ。○歌意ハ愛しき家の妻や子等も遠く望みて待居らむを其待るらむ君やいので心なく荒き島小島隠れぬるならむとなるべ。

毛美知葉能。知里奈牟山爾夜。

杼里奴流。君乎麻都良牟比等。



之可奈思母。

知里奈牟ハ宅満ガ死れるハ思ふよ未秋ふのゝらず  
してこゝかゝこ黄葉するはとなるべけれバ後を推  
丸のりて落おむとハ云るなるべし人氣疎く落葉の  
み散積りていとゞさぶくしあるべき山小永く宿  
れるをあへれみて云るあらむ○比等之可奈思母等  
類聚抄ハハ待らむ人のさても一すぢ小悲しやと  
人として作りハハ待らむ人のさても一すぢ小悲しやと  
なり之ハその一すぢある事を重く思ふする辭母ハ  
歎息辭なり○歌意ハ黄葉の散なむ山小留りて永く

宿りぬる君を然とも知ずして今日の歸り來む明日  
の歸り來むと待居らむ妻や子等の心中を思ひやる  
みさても一すぢ小悲し

くいとほしやとなり

右三首葛井連子老作挽歌

子老ハ傳未

詳ならず

和多都美能可之故伎美知乎。



也須家口母奈久奈夜美伎豆。  
 伊麻太爾母毛奈久由可牟登。  
 由吉能安末能保都手乃宇良。  
 敞乎可多夜伎豆由加武止須。  
 流爾伊米能其等美知能蘓良。

治爾和可禮須流伎美。

和多都美ハ此ハ海のことなり○可之故伎美知  
 乎可字古寫本ハ誤ハ恐ク危キ海路をといふなり十三  
 三下と作るハ腫浪能恐海矣直涉異將○也須家口母奈久奈  
 三丁ハ久字拾穂本ハ安キ事も無煩み來てなり  
 夜美伎豆ハ句と作り  
 ○伊麻太爾母ハ今なりともといえむのごとし此ま  
 てハ恐ク危キ海道を安心もなく辛クて煩み來てを  
 せめて今より行向なりとも凶事なく安ク行むとて  
 といふなり○毛奈久由可牟登とハ毛奈久ハ此下



丁タ小多婢爾豆毛モ柰久波夜許登五卷三十一小靈尅内七  
限者平氣久安久母阿良牟遠事母無裳無母阿良牟遠  
六帖又伊勢物語小我さへ裳無成ぬべき哉などあり  
毛ハ凶事を云稱小て凶事なく安く行むといふな  
り猶臭くハ五卷亦云るを考見べし由可牟登ハ新羅  
國小行むとてとなり○由吉能安未能ハ壹岐之海人  
之なり壹岐を由吉といふ事ハ上小云り○保都手乃  
宇良敞手ウラハチ宇類聚抄小ハ手と作りハ保都手ハ岡部  
氏中世相撲の最上をも秀手といへれば保都ハ太古  
の太と同づくほむる言なるべしと云り按小秀真國

又秀枝秀鷹ホツニホツタカあといふ保都ホツと同言あり即秀津ホツツありさ  
て手テハ才伎サヒあどの手テよてその業あることを云言な  
り今上手下手と云手即これなり畧解畧解手ハ添ソる  
の又契沖キセの帆手フナテなかくて宇良敞ウラハチハまづ宇良ウラと云ハ  
其ソノ更の体言タマシなるを其宇良ウラを爲ナスとき波比布閑ハヒフヘの言を  
添活ソダシのソて宇良布ウラフとも宇良敞ウラハチとも云をその用言を  
居ユて体言タマシよ爲スるなりおほ十四上三十一小委ウケ云るを  
考合カウカフすべし本居氏ホンケのこの宇良布ウラフハ宇良阿波須ウラアハス須スてふ  
と云ありと云さてかく云るハ往昔ムカシ此壹岐島ココノウチノシマのト筮タタ  
よ名高ナカウチのり所由ヨリありて云るなるべし○可多夜伎カタヤキ



豆ハ本居氏云此歌ハ雪連ガ死一を傷テ壹岐島よて  
よめるなれば彼漢國傳の龜トなるべきの然らバカ  
タヤキハ十四丁<sup>七</sup>ノ武藏野爾宇良敞可多也伎<sup>キ</sup>とある  
も此歌もとも肩<sup>カ</sup>よらあらで北の意のとも思える  
れども此歌ハ其時<sup>ウラ</sup>見テトをくくるさまよも聞え  
ず此島ハトノ名高きゆゑよ<sup>ウラ</sup>設テかくよめりと  
聞ゆれば古の鹿の肩<sup>カタヤキ</sup>灼<sup>ウラ</sup>のトの語を以テ云るなるべ  
しそも龜ト<sup>ヤキ</sup>ありて後も云なれくるまよ<sup>カタ</sup>なほ肩  
灼<sup>ヤキ</sup>と云語をそなべて用いけむ又北をカタと云も象  
の意よらあらで本ハ肩より出<sup>ウラ</sup>る名あるも志るべの

らず○伊米能其等ハ夢の如くあり○美知能蘓良治  
ハ道の空路よて由縁もあき道中よて別るを空よ比  
へて云

るなり

カヘシウタフタツ

### 反歌二首

牟可之欲里伊比祁流許等乃  
可良久爾能可良久毛已許爾



和可禮須留可聞。

歌意ハむのより云傳けるよるあえずえりて辛  
き別をこの韓國の道よてする哉さても悲やとな  
り可良といふ名を辛きとい

ふ詞よなしてのくハよめり

新羅敞可伊敞爾可加反流由  
吉能之麻由加牟多登伎毛於

毛比可彌都母。

由吉能之麻ハ將往といえむ料なり○於毛比類聚抄  
よハ思と作り○歌意ハこれハ新羅へゆくべきこと  
あるよのく道の空路よ辛き別をして心もくれまど  
いゆくべき道のよづきも得思分ずかくてハ新羅へ  
往ことの本家は還ることのいとおほつるなりとを  
契沖の宅満がたまひハ新羅へゆく故郷へ  
かへるのといふことなるなりと云るハい

右三首六鯖作挽歌



六鯖ハ契沖云續紀ニ廢帝寶字八年正月乙巳授正六位上六人部連鯖麿外從五位下ト見ゆ此人ノ氏ト名とを畧きてか

けるあるべし

ニツシマノアサゲノウラフチハテシトキ  
到對馬島淺茅浦船泊之時。

ズエオヒテヲトマリテイツカヲヘキコトニ  
不得順風經停五箇日於是

ミヤリニテ  
瞻望物華各陳慟心作歌三

# 首

淺茅浦ハ未考一

ず國人ノ問ベシ

モハフチノハツルツシマノノア  
毛母布禰乃波都流對馬能安

サゲヤマシダレノアメニモ  
佐治山志具禮能安米爾毛美

タヒニケリ  
多比爾家里。



毛母布禰乃云々ハ百船之泊津といひのけり六卷  
 四十ノ百船之泊停跡八島國百船純乃定而師三犬女  
 乃浦者とよめり○毛美多比爾家里ハ黄變よけりの  
 伸りさるあり。切かく伸て云ハ此上ノ知禮流  
 を知良敵流と云さる。同謂なり十卷四十ノ鴈鳴之  
 寒朝開之露有之春日山乎令黄物者。後撰集ハ鴈鳴て  
 美多須もの山を毛とあるも毛美都を毛美多須と云さ  
 るよて今と同ト語格あるを自然るをいふと然ら  
 むるをいふとの差別のみなり  
 ○歌意かくれさるすぢあり

安麻射可流比柰爾毛月波互  
 禮禮杼母伊毛曾等保久波和  
 可禮伎爾家流

歌意ハ都の空よて見くと同トさまよ。夷の國よ。月  
 ハ照て興阿る事あれど。一ッあらず口をさハ共  
 よ見賞つべき妹よ。遠く別れ來よけると  
 なり。十一丁。月見國同山隔愛妹隔有鴨



安<sup>ア</sup>伎<sup>キ</sup>左<sup>サ</sup>禮<sup>レ</sup>婆<sup>バ</sup>於<sup>オ</sup>久<sup>ク</sup>都<sup>ツ</sup>由<sup>ユ</sup>之<sup>シ</sup>毛<sup>モ</sup>爾<sup>ニ</sup>。

安<sup>ア</sup>倍<sup>ヘ</sup>受<sup>ズ</sup>之<sup>シ</sup>豆<sup>テ</sup>京<sup>シ</sup>師<sup>マ</sup>乃<sup>ハ</sup>山<sup>ハ</sup>波<sup>ハ</sup>伊<sup>イ</sup>呂<sup>ロ</sup>。

豆<sup>ヅ</sup>伎<sup>キ</sup>奴<sup>ヌ</sup>良<sup>ラ</sup>牟<sup>ム</sup>。

安<sup>ア</sup>倍<sup>ヘ</sup>受<sup>ズ</sup>之<sup>シ</sup>豆<sup>テ</sup>ハ不堪<sup>ズクハ</sup>てといふが如<sup>ク</sup>○歌<sup>カ</sup>意<sup>イ</sup>ハ遠<sup>トウ</sup>く

京<sup>キョウ</sup>師<sup>シ</sup>の山<sup>ヤマ</sup>の黄<sup>ワウ</sup>變<sup>ヘン</sup>る形<sup>カタチ</sup>を思<sup>オモ</sup>ひやりて云<sup>イハ</sup>るよてか<sup>カ</sup>くれ

ころす

ぢな



16  
125  
96



